

# 大学生の大学スポーツに関する意識調査 ——玉川大学の体育会クラブの在り方について——

板倉令奈

## Survey of University Students' Attitudes toward University Sports: The State of Tamagawa University's Athletic Clubs

Reina Itakura

Tamagawa University Research Institute, Machida-shi, Tokyo, 194-8610 Japan.  
*Tamagawa University Research Review*, 28, 37-42 (2022)

### 要 約

本研究は、変わりゆく国内の大学スポーツ界において、本学独自の大学スポーツの価値を創出するため学生の大学スポーツに対する意識調査を実施し、今後の施策立案における基礎資料を得ることを目的としてアンケート調査を行った。単純集計結果では本学スポーツの顔である強化指定クラブの認知度の低さや、多くの学生が大学のスポーツが帰属意識に影響すると回答した。また体育会クラブに期待する項目においては親しみやすさが最上位に位置づけられた。この結果から、大学スポーツいわゆる体育会は競技力の向上やメディアへ露出だけが価値の基準ではなく、競技活動以外の学生生活を見直し、学生のロールモデルとしての行動が大学の価値向上に寄与することが推察された。

### Abstract

In order to create a unique value of university sports in the ever-changing domestic university sports world, this study conducted a questionnaire survey of university students' awareness of university sports in order to obtain basic data for future policy planning. The results of the simple tabulation showed a low level of recognition of the designated strength clubs, which are the face of university sports, and many university students answered that university sports affect their sense of belonging. In addition, friendliness was ranked highest in the list of expectations for the athletic clubs. From these results, it can be inferred that the value of university sports is not only based on the improvement of athletic performance and media exposure, but also on the review of university students' lives outside of athletic activities and their behavior as role models for university students, which contributes to the improvement of university values.

キーワード：体育会，大学スポーツ，帰属意識，アスレチック・デパートメント

**Keywords** : Athletics, college sports, sense of belonging, athletic department

## 1. はじめに

戦後、我が国のスポーツは大学をはじめとする教育機関と企業が支えてきたが<sup>1)</sup>、昨今では企業スポーツは不況の煽りを受け廃部が相次いだ。一方で、多くの大学は学生募集やブランド価値の向上を目的とした活動の一つとして、大学スポーツいわゆる体育会クラブの強化に力を入れてきた。その中で2019年3月に日本版NCAAと称される大学スポーツ協会（以下UNIVAS）が設立された。設立理念には「大学スポーツの振興により、『卓越性を有する人材』を育成し、大学ブランドの強化及び競技力向上を図る。もって、我が国の地域・経済・社会の更なる発展に貢献する」とあり、大学スポーツの改革が徐々に進んでいる。これまでの大学スポーツの在り方は各大学の各クラブに委ねられ、卒業生などによる奉仕によって成り立っている。そのような大学スポーツ界にUNIVASから大学スポーツ界全体の方向性が示されたことで、各体育会クラブの自治に加え、大学は自分たちの理念に基づいた大学スポーツの在るべき方向性を示していく必要性が出てきた。UNIVAS設立を契機に大学界は競技力向上だけではなく、大学スポーツの価値を高めるために学内のスポーツを統括し、振興していく機運は高まりつつある。それらの役割を担う部署（アスレチック・デパートメント）や、専門的な人材（アスレチック・ディレクター）の配置を行っている大学は多くはないが増加傾向にある<sup>2)</sup>。大学スポーツを振興するためにアスレチック・デパートメントやアスレチック・ディレクターを配置し施策を立てることが求められていく中で、学生の大学スポーツに対する意識を把握することが重要であると考え。本学にも2022年4月に玉川アスレチック・デパートメント（以下TAD）が新設され、本学独自の大学スポーツの価値を創出するために、学生の大学スポーツに対する意識を把握することは意義のあるものとなるだろう。

これまでの研究では学生の課外活動参加率などの意識調査<sup>3)</sup>、学生のスポーツ・運動実施の実態調査<sup>4)5)6)</sup>、は見受けられる。また、大学への帰属意識調査や<sup>7)8)</sup>学生の大学スポーツに対する意識調査<sup>9)10)</sup>もあるが多くはない。且つ、各大学によって学生の意識傾向も異なる可能性があるため、他大学の傾向は参考にはなるが、そのまま当てはめることは適当ではないと考える。

そこで、本研究では本学、独自の大学スポーツの在り方や振興を図るために本学に在籍している学生の大学ス

ポーツに対する意識調査を実施し、今後のTADによる大学スポーツ振興のための基礎資料を得ることを目的とした。

## 2. 方法

対象は玉川大学に在籍する1年生1457名（有効回答数1383）で、2021年度春学期に開講された1年次必修科目の授業中にGoogle社が提供するアンケート作成ソフトのGoogleフォームを用いてアンケート調査を実施した。調査項目は属性に関する「性別」「入試制度」「所属学部」などの項目が7項目、高校時代の属性や経験などの項目が11項目。玉川大学におけるスポーツに関する項目が8項目。計26項目とした。

## 3. 結果

### (1) 現在の属性に関する項目群の回答割合と実数

①性別性別おいての割合は男性44.9%（654）、女性55.1%（803）であった

②入試制度においての割合は一般入試23.3%（340）、AO入試21.4%（312）、指定校推薦入試48.4%（705）、公募制推薦入試5.2%（76）、スポーツ推薦入試1.6%（24）であった。

③所属学部においての割合は文学部8.4%（122）、農学部15.2%（222）、工学部11.4%（166）、経営学部8.8%（128）、教育学部19.6%（285）、芸術学部21.5%（313）、リベラルアーツ学部11.2%（163）、観光学部4.0%（58）であった。

④現在の所属部活・団体においての割合は体育会14.5%（211）、文化会8.0%（116）、公認サークル17.6%（256）、学外の団体2.9%（42）、所属していない57.1%（832）であった。⑤現在のスポーツ実施頻度においての割合は週6-7日5.3%（77）、週5-4日10.6%（154）、週2-3日29.1%（424）、週1日27.5%（400）、週0日27.6%（402）であった。⑥スポーツ観戦を好意的に思っているかにおいての割合は、とてもそう思う27.9%（406）、そう思う31.6%（461）、どちらとも言えない21.7%（316）、そう思わない11.2%（163）、全くそう思わない7.6%（111）であった。

⑦玉川大学が第一志望であったかにおいての割合はいい70.1%（1022）、いいえ29.9%（435）であった。（表1）

表1 (1) 現在の属性に関する7項目の単純集計結果

| 質門項目      | 回答項目      | 割合(実数)      | 質門項目                 | 回答項目        | 割合(実数)       |
|-----------|-----------|-------------|----------------------|-------------|--------------|
| (1) ①性別   | 男         | 44.9% (654) | (1) ④所属団体            | 体育会         | 14.5% (211)  |
|           | 女         | 55.1% (803) |                      | 文化会         | 8.0% (116)   |
| (1) ②入試制度 | 一般        | 23.3% (340) |                      | 公認サークル      | 17.6% (256)  |
|           | AO        | 21.4% (312) |                      | 学外団体        | 2.9% (42)    |
|           | 指定校       | 48.4% (705) |                      | していない       | 57.1% (832)  |
|           | 公募        | 5.2% (76)   | (1) ⑤現在の<br>スポーツ運動頻度 | 週6-7日       | 5.3% (77)    |
| スポーツ      | 1.6% (24) | 週5-4日       |                      | 10.6% (154) |              |
| (1) ③所属学部 | 文学部       | 8.4% (122)  |                      | 週2-3日       | 29.1% (424)  |
|           | 農学部       | 15.2% (222) |                      | 週1日         | 27.5% (400)  |
|           | 工学部       | 11.4% (166) | 0日                   | 27.6% (402) |              |
|           | 経営学部      | 8.8% (128)  | (1) ⑥スポーツ観戦が<br>好き   | とてもそう思う     | 27.9% (406)  |
|           | 教育学部      | 19.6% (285) |                      | そう思う        | 31.6% (461)  |
|           | 芸術学部      | 21.5% (313) |                      | どちらとも言えない   | 21.7% (316)  |
|           | リベラル      | 11.2% (163) |                      | そう思わない      | 11.2% (163)  |
|           | 観光学部      | 4.0% (58)   | 全くそう思わない             | 7.6% (111)  |              |
|           |           |             | (1) ⑦玉川大学は<br>第一志望   | はい          | 70.1% (1022) |
|           |           |             |                      | いいえ         | 29.9% (435)  |

## (2) 高校時代の属性やスポーツ応援経験などに関する 項目群の回答割合と実数

①高校までの所属部活・団体の割合は運動部が55.9% (815), 文化部が27.4% (399), 公認サークル0.3% (4), 学外の団体2.4% (35), 所属していないが14% (204)であった。②高校までのスポーツ経験においての割合は小学校, 中学校, 高校で部活動(学外の団体含む)に所属していた43.5% (634), 小学校, 中学校で部活動(学外の団体含む)に所属していた14.6% (212), 小学校, 高校で部活動(学外の団体含む)に所属していた1.0% (14), 小学校で部活動(学外の団体含む)6.9% (101), 中学校, 高校で部活動(学外の団体含む)12.6% (183), 中学校で部活動(学外の団体含む)7.0% (102), 高校で部活動(学外の団体含む)2.7% (39), 所属していない11.8% (172)であった。③高校で部活動経験がある人の競技レベルの割合は, 全国レベル12.8% (120), 都道府県上位レベル23.3% (219), 都道府県下位28.3% (265), 市区町村レベル35.6% (334)であった。④高校時代に部活動(スポーツ)の応援活動に参加したことがある割合は, ある55.6% (810), ない44.4% (647)であった。⑤応援活動の感想(11)で「ある」にチェックをつけた方で応援活動は感想についての割合は, とても楽しかった50.1% (408), 楽しかった36.1% (294), どちらとも言えない8.6% (70), 楽しくなかった2.3% (19), 全く楽しくなかった2.8% (23)であった。

⑥応援活動をしたかった(11)で「ない」にチェック

した方で応援活動をしたと思った割合は, とてもそう思う13.5% (88), そう思う24.6% (160), どちらとも言えない37.3% (243), そう思わない12.4% (81), 全くそう思わない12.1% (79)であった。

⑦部活動を応援できる機会が多い強豪高校を羨ましいと思った人の割合は, とてもそう思う21.3% (310), そう思う23.9% (348), どちらとも言えない24.6% (358), そう思わない15.5% (226), 全くそう思わない14.8% (215)であった。

⑧出身高校に対する母校愛がある割合は, とてもある27% (393), ある37.8% (551), どちらとも言えない24.6% (289), そう思わない15.5% (128), 全くそう思わない14.8% (96)であった。

⑨高校時代, 部活動が強い(頑張っている)ことで母校愛が生まれる要因になる割合は, とてもそう思う18.6% (271), そう思う25.4% (370), どちらとも言えない21.9% (319), そう思わない9.5% (138), 全くそう思わない9.3% (135), 部活動が強くなかった15.4% (224)であった。

⑩部活動が強さは母校愛が生まれる要因の一つになりえた割合は, とてもそう思う10.3% (33), そう思う29.1% (93), どちらとも言えない25.9% (83), そう思わない16.9% (54), 全くそう思わない18.1% (58)であった。⑪高校時代, 部活動を頑張っている生徒から良い影響を受けた割合は, とてもそう思う37.8% (551), そう思う34.7% (505), どちらとも言えない17.2% (250),

表2 (2) 高校時代の属性やスポーツ応援経験などに関する11項目の単純集計結果

| 質問項目               | 回答項目      | 割合(実数)      | 質問項目                            | 回答項目      | 割合(実数)      |
|--------------------|-----------|-------------|---------------------------------|-----------|-------------|
| (2) ①高校時代の所属団体     | 運動部       | 55.9% (815) | (2) ⑦<br>応援活動の機会が多い強豪高校が羨しかった   | とてもそう思う   | 21.3% (310) |
|                    | 文学部       | 27.4% (399) |                                 | そう思う      | 23.9% (348) |
|                    | 公認サークル    | 0.3% (4)    |                                 | どちらとも言えない | 24.6% (358) |
|                    | 学外の団体     | 2.4% (35)   |                                 | そう思わない    | 15.5% (226) |
|                    | していない     | 14% (204)   |                                 | 全くそう思わない  | 14.8% (215) |
| (2) ②高校までのスポーツ経験   | 小学校～大学    | 43.5% (634) | (2) ⑧<br>出身高校への母校愛はある           | とてもある     | 27% (393)   |
|                    | 小学校・中学校   | 14.6% (212) |                                 | ある        | 37.8% (551) |
|                    | 小学校・高校    | 1.0% (14)   |                                 | どちらとも言えない | 24.6% (289) |
|                    | 中学校・高校    | 6.9% (101)  |                                 | あまりない     | 15.5% (128) |
|                    | 中学校       | 12.6% (183) |                                 | 全くない      | 14.8% (96)  |
| (2) ③高校時代の競技レベル    | 高校        | 7.0% (102)  | (2) ⑨<br>部活の強さは母校愛が生まれる要因になる    | とてもそう思う   | 18.6% (271) |
|                    | 所属なし      | 11.8% (172) |                                 | そう思う      | 25.4% (370) |
|                    | 全国レベル     | 12.8% (120) |                                 | どちらとも言えない | 21.9% (319) |
|                    | 都道府県上位レベル | 23.3% (219) |                                 | そう思わない    | 9.5% (138)  |
|                    | 都道府県下位レベル | 28.3% (265) |                                 | 全くそう思わない  | 9.3% (135)  |
| (2) ④高校時代の応援活動参加経験 | 市区町村レベル   | 35.6% (334) | (2) ⑩<br>部活の強かったら母校愛が生まれる要因になった | 強くなかった    | 15.4% (224) |
|                    | ある        | 55.6% (810) |                                 | とてもそう思う   | 10.3% (33)  |
|                    | ない        | 44.4% (647) |                                 | そう思う      | 29.1% (93)  |
|                    | とても楽しかった  | 50.1% (408) |                                 | どちらとも言えない | 25.9% (83)  |
|                    | 楽しかった     | 36.1% (294) |                                 | そう思わない    | 16.9% (54)  |
| (2) ⑤応援活動の感想       | どちらとも言えない | 8.6% (70)   | (2) ⑪<br>部活動を頑張っている生徒から良い影響を受けた | 全くそう思わない  | 18.1% (58)  |
|                    | 楽しくなかった   | 2.3% (19)   |                                 | とてもそう思う   | 37.8% (551) |
|                    | 全く楽しくなかった | 2.8% (23)   |                                 | そう思う      | 34.7% (505) |
|                    | とてもそう思う   | 13.5% (88)  |                                 | どちらとも言えない | 17.2% (250) |
|                    | そう思う      | 24.6% (160) |                                 | そう思わない    | 4.8% (70)   |
| (2) ⑥応援活動をしたかった    | どちらとも言えない | 37.3% (243) |                                 | 全くそう思わない  | 5.6% (81)   |
|                    | そう思わない    | 12.4% (81)  |                                 |           |             |
|                    | 全くそう思わない  | 12.1% (79)  |                                 |           |             |
|                    |           |             |                                 |           |             |
|                    |           |             |                                 |           |             |

そう思わない 4.8% (70), 全くそう思わない 5.6% (81) であった。(表2)

### (3) 現在、在籍している大学におけるスポーツに関する項目群の回答割合と実数

①出身高校と比べて大学の体育施設の充実度に対する割合は大学の方で充実している 56.1% (818), 高校の方が充実している 15.6% (227), まだわからない 28.3% (412) であった。②箱根駅伝を応援(観戦TV含む)したことの割合は、毎年応援(観ている)している 25.7% (374), 気が向いたらしている 47.2% (688), していない 26.4% (384), 箱根駅伝を知らない 0.8% (11) であった。③大学の強化クラブの存在を知っている割合は、はい 20.9% (305), いいえ 79.1% (1152) であった。④③の質問で、「はい」にチェックした方で知っている強化クラブの割合は女子駅伝 46.8% (147), 陸上 17.2% (54), 女子バスケットボール 21.7% (68), 男子バスケットボール 28.7% (90), サッカー 24.2% (76), ラグビー 22.6%

(71), 野球 19.7% (62), ダンスドリル 41.1% (129) であった(複数回答可)。⑤強くなって欲しい強化クラブの割合は女子駅伝 40.6% (591), 陸上 35% (510), 女子バスケットボール 29.2% (426), 男子バスケットボール 35.9% (523), サッカー 41.7% (608), ラグビー 27.8% (405), 野球 36.4% (531), ダンスドリル 34.4% (501) であった(複数回答可)。⑥興味のある(応援してみたい)大学スポーツは女子サッカー 23.4% (384), スポーツクライミング 23.3% (339), 男子駅伝 35.3% (514), 卓球 15.8% (230), eスポーツ 32.7% (476), エアロビクス 16.7% (244), ブレイクダンス 26.2% (382) であった(複数回答可)。

⑦大学のスポーツが盛り上がると大学にどのような影響があるか。ア) 学生の母校愛の向上における割合は、とてもそう思う 32.5% (473), そう思う 42.6% (621), どちらとも言えない 17.6% (256), そう思わない 4.6% (67), 全くそう思わない 2.7% (40) であった。イ) 大学のイメージアップにおいては、とてもそう思う 55.9%



(815), そう思う 36.7% (534), どちらとも言えない 5.8% (84), そう思わない 0.8% (11), 全くそう思わない 0.9% (13) あった。ウ) 学生のモチベーションアップにおいては, とてもそう思う 33.2% (483), そう思う 38.2% (557), どちらとも言えない 21.4% (312), そう思わない 5% (73), 全くそう思わない 2.2% (32) あった。エ) 入学者数の増加においては, とてもそう思う 43.8% (638), そう思う 42.6% (621), どちらとも言えない 11% (160), そう思わない 1.6% (23), 全くそう思わない 1% (15) あった。オ) 健康志向が高まるにおいては, とてもそう思う 30.7% (448), そう思う 33% (481), どちらとも言えない 25.4% (370), そう思わない 8% (117), 全くそう思わない 2.8% (41) あった。

⑧今後, 玉川大学の部活動に期待すること。ア) 強さにおいては, とてもそう思う 24.6% (358), そう思う 42.2% (615), どちらとも言えない 23.7% (346), そう思わない 5.8% (85), 全くそう思わない 3.6% (53) あった。イ) 知名度の向上における割合は, とてもそう思う

30.8% (449), そう思う 41.8% (609), どちらとも言えない 19.6% (286), そう思わない 4.7% (69), 全くそう思わない 3% (44) あった。ウ) 親しみやすさにおける割合は, とてもそう思う 41.2% (601), そう思う 40.5% (590), どちらとも言えない 14% (204), そう思わない 2.1% (31), 全くそう思わない 2.1% (31) あった。エ) 文武両道のロールモデルにおける割合は, とてもそう思う 29.2% (426), そう思う 39.1% (569), どちらとも言えない 24.2% (352), そう思わない 4.3% (63), 全くそう思わない 3.2% (47) あった。オ) 観戦機会の増加は, とてもそう思う 28.1% (409), そう思う 35.6% (518), どちらとも言えない 25.3% (368), そう思わない 6.9% (101), 全くそう思わない 4.2% (61) あった。カ) プロ選手の輩出は, とてもそう思う 28.3% (413), そう思う 33.4% (486), どちらとも言えない 27.2% (396), そう思わない 6.7% (98), 全くそう思わない 4.4% (64) あった。(表3)

表3 (3) 在籍大学におけるスポーツに関する8項目の単純集計結果

| 質問項目                                 | 回答項目   | 割合(実数)   | 質問項目  | 回答項目   | 割合(実数)  | 質問項目               | 回答項目   | 割合(実数)   |
|--------------------------------------|--|--|---|--|---|--------------------|--|--|
| (3) ①体育施設の充実度                        | 大学の方が充実<br>高校の方が充実<br>まだわからない  | 56.1% (818)<br>15.6% (227)<br>28.3% (412)  | (3) ⑦大学のスポーツが盛り上がり<br>と大学にどのような<br>影響がある ア) 学生<br>の母校愛の向上 | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 32.5% (473)<br>42.6% (621)<br>17.6% (256)<br>4.6% (67)<br>2.7% (40) | (3) ⑧イ)<br>知名度の向上  | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 30.8% (449)<br>41.8% (609)<br>19.6% (286)<br>4.7% (69)<br>3% (44)    |
| (3) ②箱根駅伝を応援したこと<br>がある              | 毎年応援している<br>気が向いたらしている<br>していない<br>知らない                                | 25.7% (374)<br>47.2% (688)<br>26.4% (384)<br>0.8% (11)   | (3) ⑦イ)<br>大学のイメージ<br>アップ                                 | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 55.9% (815)<br>36.7% (534)<br>5.8% (84)<br>0.8% (11)<br>0.9% (13)   | (3) ⑧ウ)<br>親しみやすさ  | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 41.2% (601)<br>40.5% (590)<br>14% (204)<br>2.1% (31)<br>2.1% (31)    |
| (3) ③大学の強化クラブ<br>の存在を知っている           | はい<br>いいえ  | 20.9% (305)<br>79.1% (1152)  | (3) ⑦ウ)<br>学生のモチベ<br>ーションアップ                              | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 33.2% (483)<br>38.2% (557)<br>21.4% (312)<br>5% (73)<br>2.2% (32)   | (3) ⑧エ)<br>ロールモデル  | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 29.2% (426)<br>39.1% (569)<br>24.2% (352)<br>4.3% (63)<br>3.2% (47)  |
| (3) ④<br>知っている<br>大学の強化クラブ           | 女子駅伝<br>陸上<br>女子バスケットボール<br>男子バスケットボール<br>サッカー<br>ラグビー<br>野球<br>ダンスドリル | 46.8% (147)<br>17.2% (54)<br>21.7% (68)<br>28.7% (90)<br>24.2% (76)<br>22.6% (71)<br>19.7% (62)<br>41.1% (129)     | (3) ⑦エ)<br>入学者数の増加  | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 43.8% (638)<br>42.6% (621)<br>11% (160)<br>1.6% (23)<br>1% (15)     | (3) ⑧オ)<br>観戦機会の増加 | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 28.1% (409)<br>35.6% (518)<br>25.3% (368)<br>6.9% (101)<br>4.2% (61) |
| (3) ⑤<br>強くなって<br>ほしいと思う<br>強化クラブ    | 女子駅伝<br>陸上<br>女子バスケットボール<br>男子バスケットボール<br>サッカー<br>ラグビー<br>野球<br>ダンスドリル | 40.6% (591)<br>35% (510)<br>29.2% (426)<br>35.9% (523)<br>41.7% (608)<br>27.8% (405)<br>36.4% (531)<br>34.4% (501) | (3) ⑦オ)<br>健康志向が<br>高まる                                   | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 30.7% (448)<br>33% (481)<br>25.4% (370)<br>8% (117)<br>2.8% (41)    | (3) ⑧カ)<br>プロ選手の輩出 | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 28.3% (413)<br>33.4% (486)<br>27.2% (396)<br>6.7% (98)<br>4.4% (64)  |
| (3) ⑥<br>興味のある・<br>応援してみたい<br>大学スポーツ | 女子サッカー<br>スポーツクライミング<br>男子駅伝<br>卓球<br>eスポーツ<br>エアロビクス<br>ブレイクダンス       | 23.4% (384)<br>23.3% (339)<br>35.3% (514)<br>15.8% (230)<br>32.7% (476)<br>16.7% (244)<br>26.2% (382)              | (3) ⑧<br>玉川大学の<br>部活動に期待<br>すること<br>ア) 強さ                 | とてもそう思う<br>そう思う<br>どちらとも言えない<br>そう思わない<br>全くそう思わない | 24.6% (358)<br>42.2% (615)<br>23.7% (346)<br>5.8% (85)<br>3.6% (53) |                    |  |  |

#### 4. まとめ

まず、本学の大学スポーツの中心的役割を担っている強化クラブの存在を知っている割合が20.9% (305)と低いことがわかった。知っている強化クラブにおいては女子駅伝チーム 46.8%とダンスドリル 41.1%と過半数に近い認知割合であったが、その他の陸上 17.2% (54), 女子バスケットボール 21.7% (68), 男子バスケットボール 28.7% (90), サッカー 24.2% (76), ラグビー 22.6% (71), 野球 19.7% (62) は30%未満であった。競技力向上を図ることは前提として、学内における強化クラブの認知度を上げなければ、大学のブランディングに寄与出来ず、強化クラブが存在する意義が薄れてしまう。強化クラブの認知割合を増やすには、大学、強化クラブ双方が様々な媒体を通して広報活動を実施する必要性が考えられる。

次に、大学のスポーツが盛り上がり大学にどのような影響あるのかに対しては、「とてもそう思う」と「そう思う」の合算値を以下に抽出した。ア) 学生の母校愛の向上と回答した学生の割合は75% (1094), イ) 大学のイメージアップと回答した学生の割合は92% (1349), ウ) 学生のモチベーションアップと回答した学生の割合は71% (1040), エ) 入学者数の増加と回答した学生の割合は86% (1259), オ) 健康志向が高まると回答した学生の割合は63.7% (929) と示された。これらの結果から大学のスポーツが盛り上がり大学のブランディングに寄与し、さらには帰属意識の醸成に繋がると考えている学生が多数いることが考えられる。

最後に今後、玉川大学の部活動に期待していることの問いには、ア) 強さ、イ) 知名度、ウ) 親しみやすさ、エ) 文武両道のロールモデル (模範)、オ) 観戦機会の増加、カ) プロ選手の輩出、これら6つの問いに対しては全項目で「とてもそう思う」と「そう思う」の合算値が60%以上であった。6つの中で最も期待されていることは、ウ) 親しみやすさ、次に期待されていることは、イ) 知名度の向上であった。特にウ) 親しみやすさは「とてもそう思う」と「そう思う」の合算値が81.7%と示され、強さや知名度だけが学生に対するポジティブな要因ではないことが推測された。これらを踏まえると、本学における大学スポーツの振興は競技力強化や知名度向上だけ

ではなく、授業に対する姿勢、一般学生との積極的な交流の機会を増やすことが必要になってくると思われる。

つまりは「学生のロールモデル」としての行動が土台となり在学生からの支持を得られるのではないだろうか。大学スポーツを大学のブランディング価値向上に寄与させるため、各クラブの競技力向上に注力することは間違った施策ではない。しかし、メディアへの露出度合いや戦績だけでクラブの価値が決まってしまうと、本質的な大学の価値向上は一過性のものになってしまう可能性がある。TAD は学内のスポーツを学生のみならず、K-12の児童・生徒からも認知され、応援される存在にし、学外へのマーケティングにも繋げていきたい。

今後は、今回の調査から抽出したデータの詳細な分析を行い、本学の独自の大学スポーツの発展に寄与できるよう更なる調査・分析を進めていきたい。

#### 注・参考文献

- 1) 森正明 2018 大学スポーツに関する研究―一部活動から大学スポーツへ―. 体育研究第 52 号
- 2) スポーツ庁 2021 令和 2 年度大学スポーツの振興に係るシンポジウム資料 (令和 3 年 3 月 1 日開催).
- 3) 一般社団法人日本私立大学連盟 2015 私立大学生白書 2015, pp.29-33
- 4) 野口和行ら 2009 慶応義塾大学大学生のスポーツ・運動行動に関する実態調査. 慶応義塾大学体育研究所紀要, Vol.48, pp.7-20
- 5) 村山光義ら 2001 慶応義塾大学大学生の運動実施に関する最新資料―全学部を対象とした調査結果から―. 慶応義塾大学体育研究所紀要, Vol.40, pp.17-29
- 6) 中野恭平 2016 大学体育実技の成果と学生の運動実施状況に関する研究. 南山大学紀要『アカデミア』人文・自然科学編, 第 11 号, pp.69-90
- 7) 元根朋美 2018 学生の誇りにつながる自校教育の内容選定に向けて①―学生が自慢したいと思う大学像の調査研究―帝塚山大学人間環境科学研究所紀要, 第 25 巻, pp.47-60
- 8) 杉本龍勇 2020 在校生の大学スポーツに対する評価が大学への帰属意識に与える影響. 法政大学スポーツ研究センター紀要, 38 巻, pp.55-67
- 9) 杉本龍勇ら 2017 学生における体育会活動に対する意識調査. 法政大学スポーツ研究センター紀要, 35 巻, pp.95-102
- 10) 杉本龍勇ら 2018 学生の体育会活動に対する意識調査. 法政大学スポーツ研究センター, 紀要 36 号, pp.37-49